令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団
施設名	札幌芸術の森
内定額	10,964　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
人-01	札幌芸術の森バレエセミナー		
人-02	札幌ジュニアジャズスクール		
人-03	パークジャズライブコンテスト		
人-04	ジャズセーバーズ		
普-01	パークジャズライブ		
普-02	ユニバーサルジャズライブ		

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	31	33	28
	公演事業	2	1	1
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	人材養成事業	4	5	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	3	4
	普及啓発事業	25	27	23
	（内、本助成対象事業本数）	0	3	2
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	692	667	560
	ホール名：アートホール・アリーナ　座席数：600	243	226	199
	ホール名：アートホール・大練習室　座席数：300	171	174	143
	ホール名：アートホール・中練習室　座席数：150	238	231	206
	ホール名：野外ステージ　　座席数：5000	40	36	12
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	111,489	123,974	113,390
	公演事業	3,157	4,294	3,280
	人材養成事業	237	393	733
	普及啓発事業	108,095	119,287	109,377
	共生社会事業			
	その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	15,540	18,442	24,743
	その他　内容：記入してください			
	計	127,029	142,416	138,133
開館日数		336	334	335
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		302	227	240
施設の利用日数		167	143	140
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		55.3%	63.0%	58.3%

備考	
	施設の利用可能日数、利用日数、利用率は、公演可能な施設（アリーナ、大練習室、中練習室、野外ステージ）の値の平均値を記載しています。 ※アートホール（アリーナ、大練習室、中練習室）改修工事：令和8年2月1日（日）～令和9年4月28日（水） ※野外ステージ改修工事：令和7年7月29日（火）～令和8年7月20日（月）

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	2	9	3,157		2					
	共催・提携公演（※2）	2	2	1,372		1					1
	貸館公演	46	56	15,540		38	5	1			2
	計	50	67	20,069							
令和6年度	主催公演（※1）	1	8	3,159		1					
	共催・提携公演（※2）	1	1	125							1
	貸館公演	39	39	18,442		37	1	1			
	計	41	48	21,726							
令和7年度	主催公演（※1）	1	8	3,280		1					
	共催・提携公演（※2）	1	1	125							1
	貸館公演	39	39	10,883		33	2	2		1	1
	計	41	48	14,288							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
	※対象事業なし	目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団
施設名	札幌芸術の森
内定額	10,964　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価	自己評定（※1）	評定
	該当なし			

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	○人材養成事業への応募者、参加者数 ○養成対象者の参加後の反応 ○指導者による評価（アンケート・インタビュー）	①前年度または前回実施時を上回る応募数を得る/定員の 80%以上の育成数/リピーター率(2 回目以上の参加数) ジャズスクール 60%、バレエ 40%以上の達成 ②５段階評価で上位２段階「たいへん満足した」「満足した」と回答した人が 60%以上／アンケートで「また参加したい」と回答した人が60%以上 ③アンケートまたはインタビューで概ね好評価を得る／次年度以降の継続に向けて成果と今後の課題・改善点を把握する	①バレエセミナーは基本クラス応募数 83 人で令和 6 年度より 7 人減。定員比は 78%で目標未達、リピーター率は約49%で目標値を達成。ジャズスクールは応募数 41 人で令和 6 年度より 8 人減。定員比は 80%、リピーター率は 82%でいずれも目標を達成。 ②満足度について、バレエセミナーは上位 2 段階の回答が 100%。「また参加したい」が 90%。ジャズスクールは上位 2 段階の回答が 88%、「また参加したい」が 94%。パークジャズライブコンテストは上位 2 段階の回答が 91%。ジャズセーバーズは上位２段階の回答が 92%、「また参加したい」が 90%。いずれの事業も目標を達成した。 ③バレエセミナーでは、期間前及び期間中に講師とミーティングを行い、受講生の指導に関する情報を共有し、対応について協議した。ジャズスクールでは講師と期末に反省会を行い、次年度に向けた改善策を協議。課題を共有し、効果的な取り組みについて調整を行った。

普及啓発事業	○事業の参加者数 ○事業参加者・来場者の評価 ○事業への来場者数	①参加者数 1,100 名以上 ②パークジャズライブ事業において参加者へのアンケート回答者のうち 80%以上が「また参加したい」と回答/ユニバーサルジャズライブ事業において来場者へのアンケートの５段階評価で上位２段階「またジャズを聴きたい」「機会があれば聴きたい」と回答した人が 70%以上 ③総来場者数・参加者数 60,000 人以上達成	①パークジャズライブでは、参加者（出演者）数が 1,176 人で目標値を達成。（先着順で募集開始から 4 日で定数に到達） ②パークジャズライブのアンケート（回答 125 名）では、「是非参加したい」が 78%、「日程が合えば参加したい」が 21%、合計 99%が参加希望で満足度やニーズの高さがうかがえる。ユニバーサルジャズライブでは、来場者のアンケートで上位２段階の回答が 91%、目標を達成。 ③パークジャズライブ来場者数 50,169 人、参加者数 1,176 人、ユニバーサルジャズライブ来場者数 193 人、合計 51,538 人と、目標の 60,000 人には届かなかった。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	該当なし

人材養成事業	
自己評価	バレエセミナーは、基本クラス受講者数が前回実施時より若干減少したが、要因のひとつとして道内他地域のバレエコンクールと日程が重なったことが挙げられる。リピーター率の高い上級、中級シニア、中級ジュニアの 3 クラスは、定員の 80%を超える申込があった。前年から減少比の大きかった初級クラスについては、次回に向け体験レッスンの導入等、受講ハードルを下げる改善策を講じる。講師陣とは、期間前・期間中に細やかに打合せを行い、受講生が安全にスキルを伸ばせる環境を整えることに努めた。その効果も有り、受講生アンケートでの満足度は上位 2 段階が 100%で、「また参加したい」が 90%と、満足度の高い魅力ある事業を実施できたと考えている。 ジャズスクールは、受講生の 82%が前年度以前からの継続参加者で、次年度以降も「また参加したい」が 94.1%であり、満足度の高い事業実施により継続性を実現している。また、事務局スタッフと講師間のミーティングも定期的に行い、楽曲のアイデアや日々起こっている事柄について共有し、相互の役割分担し、子どもたちが安心してのびのびと活動できる環境を整え、事業内容の工夫を行うことができた。 パークジャズライブコンテストについては、参加者アンケートの満足度で上位 2 段階 91%と非常に高かったことに加え、来場者については会場に市内中心部の札幌市民交流プラザを加えたことから、初来場の割合が 34%と高く、新たな層に事業を周知することに成功したと考えられる。 ジャズセーバーズ事業については、全参加者のうち、2 回目以上のリピーター参加者数が 70%以上、また、10 代から 80 代までの幅広い年齢層が参加した。聴覚障碍者の受け入れも行い、構成の多様化と、参加者同士の活発なコミュニケーションの場の創出を図ることができた。

普及啓発事業	
自己評価	パークジャズライブ事業において、参加応募数が締切前に早々に定数に達し、アマチュアを中心に非常に高いニーズがうかがえる。参加者の事後アンケートからも 98%以上の方が「また参加したい」と回答しており満足度も高い。また、来場者を対象としたアンケートでは回答者の 50%が初めての来場者であり、満足度も高く、札幌中心部の特色ある会場で同時多発的に開催する無料ライブの普及効果は大きいものと考える。 ユニバーサルジャズライブ事業では、アンケートの総合満足度で「とても満足」・「満足」の合計が 85%となり、満足度の高いライブを提供することができたと考える。また「初めての来場」が 43%と、新たな層への事業の普及・発信に繋げることができた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
○海外アーティスト、海外講師を招いたワークショップ、公演、国際交流事業実施数。 ○国際交流事業の実施に向けた継続した情報交換の実施。	①年間３事業（公演）以上の実施 ②ジャズスクール国際交流事業について、適宜ノルウェーとの情報交換ミーティングを行う	①シアタージャズライブ、セイコーサマージャズキャンプオールスター公演、ジャズスクール国際交流事業での「Kids in Jazz」における演奏等、３事業以上の実施を達成した。 ②ノルウェーのキッズジャズバンドで、現地での受け入れ団体である「Improbasen」事務局のスタッフと、渡航前から渡航後まで、滞在中の有意義な事業実施や、ジャズによる育成事業の今後の展望に係る情報交換ミーティングを密に行うことができた。 (上記は助成対象外事業)

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	シアタージャズライブで新型コロナウイルス沈静化後に初となる海外アーティストを招聘したほか、令和６年度に引き続きジャズの本場アメリカでトッププレイヤーとして活躍するセイコーサマージャズキャンプ講師陣によるオールスター公演を開催し、国際性に富んだ公演を開催することができた。また、ジャズスクール国際交流事業でノルウェー訪問を訪問するにあたり、ノルウェー側の受け入れ団体である「Improbasen」事務局と情報交換を密にできたほか、「Improbasen」側も来日し、子どもたちの人的交流も行われた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
○スクール参加者の属性（年齢、居住区域） ○子ども対象事業の市内外での実施数 ○生活の質（QOL）の向上 ○新たなコミュニケーションの創出 ○事業連携先の業種及び数 ○事業会場として地域建造物を活用 ○類似団体とのネットワークと情報交換 ○貸利用者満足度	①小中学生の各年齢で札幌各区域、近郊から幅広い参加を得る ②実施数 4 事業以上 ③アンケートで事業に参加することが楽しい、やりがいになっている、との回答を 40%以上 ④アンケートで友達、仲間ができた、新たな出会いがあった、との回答が 30%以上 ⑤事業制作協力、協賛者など地元を中心とする企業、団体、アーティストなど多様な連携先と事業を制作する 15 者以上 ⑥パークジャズライブ会場に歴史的建造物など 6 箇所以上活用 ⑦4 団体と継続 ⑧貸館利用者アンケートで 80%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	①ジャズスクールでは、小学 1 年生(7 歳)から中学 3 年生(15 歳)まで幅広い年齢層が属し、札幌市内の各区のほか、近郊の江別市や石狩市、北広島市など幅広い地域から参加を得た。 ②主に子ども対象の事業として、札幌ジュニアジャズスクール、デイタイム親子ジャズ、交通資料館ライブ等の事業のほか、北海道ジャズの種プロジェクトにより、北海道内の 4 市町地域(砂川市・羊蹄山麓周辺地域・幕別町・広尾町)との交流を行い、砂川市、倶知安町、広尾町での合宿や合同演奏会を開催。4 事業を実施。 ③ジャズスクールは、「ジャズスクールに参加することがやりがいや生活の楽しみになっている」71%。ジャズセーバーズでは、参加することが「楽しい、または、やりがいとなっている」が 100%で目標達成。 ④ジャズスクールでは、「メンバーと友達になれた」が 94%、「ほかの地域のジャズスクールメンバーと友達になれた」が 82%、「ノルウェーから来たメンバーと交流できて楽しかった」が 71%など。ジャズセーバーズでは「活動を通して新たな出会いや友達ができた」が 66%。いずれも目標を達成。 ⑤ジャズスクールでは、地元の企業・団体 13 社から協賛・寄付をいただいているほか、地元ミュージシャンや、社会福祉関係団体、事業制作団体など

		7者以上と提携し事業を実施した。 ⑥パークジャズライブでは、以下の札幌市内の歴史的建造物をはじめ、公共施設、民間施設を活用した。 豊平館（国指定文化財）、旧永山武四郎邸（北海道指定文化財）、平岸ダルマホール（国登録文化財関連施設）、北海道神宮頓宮、ニューオータニイン札幌、moykuSAPPORO、札幌駅前地下歩行空間、札幌市北３条広場「アカプラ」 ⑦ジャズスクール事業において、『北海道ジャズの種プロジェクト』を通して、「まくべつジュニア・ジャズスクール」、「砂川キッズジャズスクール」、「Mt.ようてい・ジュニア・ジャズスクール」、「広尾サンタランド・ジャズスクール」の北海道内の４地域の類似団体とのネットワークを維持し、情報交換や交流を行った。 ⑧芸術の森施設利用者アンケートでは 85%以上が対応に「とても満足」「満足」と回答した。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（文化拠点機能） 夏季の観光シーズンにあわせて開催するパークジャズライブは、参加者からも事業参加のニーズが非常に高い事業であり、約 10 の会場には札幌の象徴的な大通公園をはじめ歴史的建造物などを活用し、観客には入場無料で来場しやすくし、参加者・観客ともに満足度が高く、毎年夏の風物詩として親しまれ、評価を受けている。実施にあたって行政、各会場との交渉や調整、参加者とボランティアの募集から運営まで、地域の文化拠点の強みを生かして展開している。 ※満足度（参加者 99%、来場者 90%） （地域連携） ジャズスクールでは育成事業で継続することが重要であるが、指導者は地域のジャズミュージシャンであり地域企業の協賛支援及び各団体との連携など地域資源を活用し継続が実現している。子どもの満足度やリピーター率も高く、また幅広い年齢層や参加地域も広範囲に及ぶ。音楽で子どもたちの自主性や協調性を育むことが目的であるが、子どもたちの中には学校ではなくスクールが居場所で自己を輝かせる場所になっているケースも少なくなく、文化施設として果たす役割は大きいと考えている。 ※満足度（71%）、リピーター率（82%） ジャズのフェスティバル事業を支えるボランティアには幅広い層の世代が参画し、やりがいを得て活躍しており、世代を超えた出会いと交流の場として機能している。地域コミュニティの活性化、生活の質の向上に寄与することができた。 ※満足、新たな出会い、友達になれた（66%）、やりがい（100%） また、市内各所で展開するライブ会場として地域の文化資源（建物）を活用し、地域の関係機関との連携により、札幌ならではのイベントの魅力や特色をもたらす効果をあげている。 （児童生徒への機会提供） ジャズスクールでのプロミュージシャンによるワークショップやバレエセミナー事業での受講生・見学者向けの公開レッスンのほか、乳幼児を含む親子連れでジャズに触れられる「デイタイム親子ジャズ」を開催し、割引料金を設定。多様な活動を参加しやすく配慮し、実施できた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
○外国語版リーフレットの作成数 ○市民ボランティアの属性（年代、居住区域） ○アクセシビリティに配慮した事業数 ○ホームページ多言語対応事業数 ○複数の料金種別設定	①外国語版リーフレットの作成 1 件以上 ②10 代～70 代まで、市内各区域、近郊から幅広い参加を得る ③年間 3 事業以上 ④多言語対応のホームページを作成 3 事業以上 ⑤ライフスタイルや好み、障がいの別、年齢等により参加しやすい席種や料金を設定 3 事業以上	①ジャズスクール国際交流事業の開催に伴い、事業広報用の外国語(英語・ノルウェー語)の紹介リーフレットを作成し、現地で配布した。 (助成対象外) ②ジャズセーバーズで札幌市内外、また道内外の全国から、10 代から 80 代まで幅広い年齢層が、通年で活動に参加した。 ③アクセシビリティに配慮した事業として、ユニバーサルジャズライブ、パークジャズライブ(チ・カ・ホ会場)、デイタイム親子ジャズ、ジャズスクールのチャリティライブの 4 事業を開催した。 (助成対象外事業を含む) ④ジャズスクール、バレエセミナー、パークジャズライブのホームページを多言語対応化した。 ⑤ユニバーサルジャズライブ、ジャズスクールのチャリティライブで障がい者割引を設定したほか、ジャズスクールのファイナルライブでの中学生以下割引、デイタイム親子ジャズでの親子セット券、未就学児無料や高校生以下割引、Seiko Summer Jazz Camp All Stars 2025 in Sapporo での高校生以下割引など、障がいやライフスタイルに配慮した事業を展 5 事業以上展開した。(助成対象外事業を含む)

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（プログラム多様さ） サッポロ・シティ・ジャズのフェスティバル事業として、参加型・入場無料のパークジャズライブ、ジャズのトッププロが集うシアタージャズライブ（助成対象外）、市内イベントや団体とタイアップで行う地元ミュージシャンの無料ライブ（助成対象外）、図書館でのジャズライブラリー（対象外）、子どもや障がいを持つ方を対象とするライブなど多様な場所や切り口でジャズに触れる事業を年間約 20 事業実施している。 （参画者の多様さ） ボランティアは年齢が 10 代～80 代までと幅広く、また学生から現役世代、リタイア世代まで属性も多様で、撮影や司会、受付など様々な役割を担い活動している。ジャズスクールの子どもたちは小学 1 年から中学 3 年生までが参加し、上の年齢の子が下の子の面倒をみるなど精神的な成長が促進できる効果がみられる。道内各地や海外など多様な地域の子どもたちとの交流で言葉や文化の違いを超え、相互理解の意識を持たせることができた。 （アクセシビリティ） 身体の不自由な方でも参加しやすいライブとしてユニバーサルジャズライブ、ジャズスクールのチャリティライブ MUSIC LAMP、親子を対象とした親子ジャズなどの事業を実施。スクールでの高齢者施設やイベントへのアウトリーチを含め、多様な方々と実演芸術を繋ぐ取り組みを継続して行った。外国人のアクセスを改善するため、ジャズスクールとパークジャズライブの 2 事業でホームページの多言語化を実施した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
ジャズスクールでは、新型コロナウイルスの影響で数年間中止していた老人ホームの慰問演奏を再開した。入居者から歓迎の声が寄せられ、スクール生も演奏を目の前で熱心に聴き入る姿や、手作りのクリスマスカードを手渡すなど、入居者との交流体験により、多くが年度末の振り返りで最も印象的な活動として挙げた。文化芸術を通じた地域貢献に加え、参加者の感性や成長にとっても意義のある取り組みとなった。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	安定した事業運営のため自己財源に加え補助金、助成金、地元企業からの協賛獲得に努めている。	サッポロ・シティ・ジャズ事業でメルマガ会員制度の実施をしている。その他各種媒体での広報計画を策定しているが、SNS を活用した広告の取り組みが少ない。
目標(値)（※２）	引き続き各種助成金獲得と協賛金営業の活動を継続するとともに新規営業に努める。	インスタグラムや広告など、対象者別の SNS を活用した広報を実施する。
実績(値)	ジャズ事業を鑑賞した地元企業の中から、新規協賛につながる事例が１件あった。	バレエセミナーや、パークジャズライブ及びコンテストの募集で、効果的に SNS 広告を活用することができた。
団体の自己評価	地道な営業活動を行い、継続的な関係性の構築に努めたほか、事業の魅力向上を通して協賛の新規獲得にも努めた。	SNS 広告では興味関心のある層をターゲットとして配信し、効率的な広報を行うことができた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	同財団内の他劇場との連携事業にも取り組んでいるが、本数が少なく効率的とは言えない。	設置者と芸術の森との政策推進委員会を毎年実施する他、昨年より今後の芸術の森あり方検討会を開催し、積極的な意思疎通を実施している。
目標(値)（※2）	新規連携事業、協力支援１件以上	引き続き、綿密な意思疎通を継続する。
実績(値)	バレエセミナー事業において、市民交流プラザ事業部バレエプロジェクトと連携し公開講座を実施したほか、札幌市図書・情報館と連携し、ジャズライブラリートークを開催した。	年４回の施設運営協議会、２回の政策推進委員会を実施。
団体の自己評価	互いの長所を生かす形で連携事業を開催できている。今後もより強化していく。	継続し適切な情報共有を行った。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	常任の芸術監督は不在だが、事業毎に芸術監督を委託し、多種にわたる分野それぞれに特化した統括を配置している。	長期的視点に立ち、劇場運営を統括する人材を配置している。
目標(値)（※2）	継続して分野毎の委託芸術監督の配置を行う。	今後も継続して配置する。
実績(値)	継続できた。	継続できた。
団体の自己評価	事業ごとに外部コーディネーター委嘱をするなど専門的な知識を有する人材を配置し事業運営に役立てた。	今後も継続して配置を行う。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	専門知識を有する人材育成と確保に努めているが、異動や契約職員入替時に不足することがある。	職務内容等は概ね専門性や経験を基に整理され役割分担されている。
目標(値)（※2）	不足部分は外部専門事業者への業務委託を含め対応する。	今後も継続して努める。
実績(値)	専門人材の育成に努めた。	継続して役割分担・配置を行った。
団体の自己評価	外部講師やコーディネーター委嘱をするなど専門性の高い人材を配置すると同時に、スタッフのスキルアップにも努め、事業運営のノウハウを蓄積している。	職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	年齢バランスを考慮した人材確保ができている。	管理職世代の女性が少ないため、現状は 30%を下回っているが、組織全体としては女性が多い。
目標(値)（※2）	継続して年齢バランスを考慮した人材確保に努める。	今後も登用に努める。
実績(値)	年齢バランスを考慮した人材確保に努めた。	管理職に占める女性の割合は 35%を超えている。
団体の自己評価	長時間労働の削減に努めるなど、職員雇用環境整備を通して人材確保に努めた。	今後も登用に努める。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児休暇･介護休暇の制度を整え、希望者が取得できる環境である。	情報セキュリティをはじめコンプライアンスの順守規定を策定し、職員対象の研修を毎年実施している。
目標(値)（※2）	今後も制度を周知し、希望者が取得できるよう努める。	今後も研修を継続し、コンプライアンス遵守に努める。
実績(値)	部署内には育児休暇・介護休暇の制度の対象者が居なかった。	情報セキュリティやコンプライアンスの順守についての研修を職員が受講した。
団体の自己評価	制度対象者は居ないが、より一層周知を図る。	メールや文書の送信にかかわるミスが発生したが、原因を究明し、対策を検討。職員に周知徹底している。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメント等防止のための指針を策定・周知し、必要な研修を行っている。	フリーランス新法等法律の施行に対応した適正な契約書を手交している。
目標(値)（※2）	今後も研修を継続し、ハラスメント防止に努める。	今後も適切な契約事務に努める。
実績(値)	ハラスメント等防止のための指針等を周知し、役職別に必要な研修を行った。	適正な契約書を交わしている。
団体の自己評価	全職員を対象に引き続き研修を実施し、必要な知識の習得に努めるとともにハラスメント相談窓口の周知等環境整備に努める。	契約書等必要な手続きにより業務発注を行っており、引き続き適切な事務を行う。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
◆札幌芸術の森のミッションならびにビジョンを踏まえた主催事業を展開し、すべての事業において、概ね当初の目標を達成することができた。 ◆人材養成事業では、ジャズスクールやバレエセミナーにおいて、講師陣や関係各所との連携・協力により、芸術性と受講者のニーズの両立を目指し、参加者から高い満足度を得ることで、継続的な事業展開へとつなげることができた。特にジャズスクールでは、中学生クラスのノルウェー・オスロの訪問により国際交流を行うとともに、地域活動では近隣の老人ホームやお祭りでの演奏、ごみ拾い活動等の社会奉仕を通して地域との関わりを深めることができた。ジャズセーバーズにおいても幅広い年代がやりがいを感じながら参加し、参加者間の新たなコミュニケーションが生まれ、文化事業を支え、地域活性化に繋がっている。パークジャズライブコンテストにおいては、新たな観客層の取り込みに成功し、より多くの多様な観客の前での演奏を通して、出演者の養成につなげることができた。 運営面では、協賛営業に努め、新規、継続各企業の支援を得て主要な財源とした。育成事業継続のため、次年度に不足する財源は引き続き営業活動を継続し、事業への理解を図る。 ◆普及事業では、多様な入り口、アクセスや参加のしやすさ、楽しさを重視した事業の企画に努め、来場者数の点では目標数には届かなかったものの、総じて観客から高い評価を得た。パークジャズライブは、アマチュア音楽家を中心に出演ニーズが非常に高く、豊平館（国指定文化財）、旧永山武四郎邸（北海道指定文化財）、平岸ダルマホール（国登録文化財関連施設）、北海道神宮頓宮といった地域の文化資源を活用することができた。ユニバーサルジャズについても、障がいの有無にかかわらず誰もがジャズ音楽に親しめる公演として、新たな層への芸術の普及・発信に繋げることができた。 ◆多様性とアクセシビリティの点では、通常ライブ等にアクセスしにくい方を対象として事業の実施、事業対象者に応じた割引設定、内容の工夫を行い、外国人に対しては 3 つの事業でホームページの多言語対応化を実施した。今後も多様な方が広くジャズに親しめる取り組みを継続する。 ◆以上のことから、来年度以降も、人材育成事業の充実と参加しやすく魅力的な普及事業の実施のため、関係各所との連携や財源確保のための営業活動や安定的な運営の工夫に努めながら、持続可能な事業の実施方法を探り、各事業に取り組んでいきたい。

備考